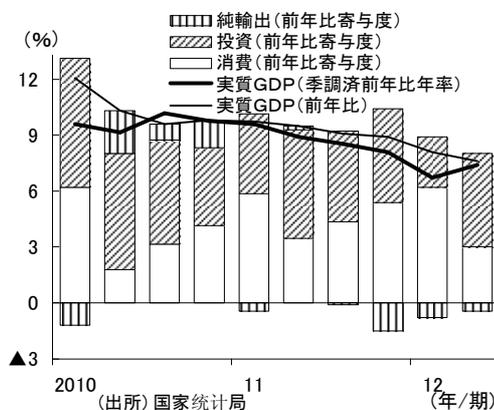


中国成長再加速の兆し

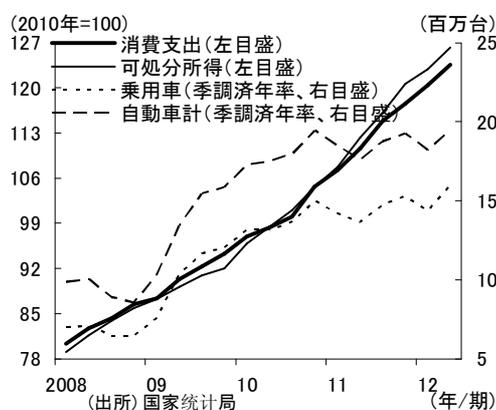
～ 投資と輸出が牽引役 ～

- (1) 本年4～6月期、前年比でみた中国の経済成長率は実質7.6%に鈍化（図表1）。先行きを懸念する見方が拡がり。しかし季節調整を施してみると年率ベースで本年1～3月期の6.7%がボトム。4～6月期は7.4%と再加速の兆し。さらに公表計数から四半期別の寄与度を試算すると、消費が底堅く推移するなか、投資が盛り上がり。加えて純輸出のマイナス幅が縮小し、限界的にみれば、外需が成長寄与。それぞれの現状を整理すると次の通り。
- (2) まず消費では所得雇用環境の改善が続くなか、消費支出がハイペースの増勢を持続（図表2）。若年人口の減少に伴う労働需給の逼迫や労働法改正に伴い、10年半ば以降、所得の増勢が一段と加速。加えて、旺盛な消費者マインドのもと、販売動向も引き続き好調。自動車販売台数は10年半ば以降、一進一退で推移していたものの、今春から再び増勢回復。本年6月の販売台数は季調済年率で乗用車が1,637万台。自動車全体では1,999万台と2,000万台目前に。
- (3) 次いで欧州危機を主因に昨年入り後、輸出が一進一退に転じ、外需が成長制約に（図表3）。根強い内需で輸入の増勢に歯止めが掛からず、実質貿易黒字が趨勢的に減少。しかし、本年に入って輸出が再び増勢回復。欧州向けは依然低迷ながらアジアや中東、中南米など新興国向け輸出が好調。総じて新興国では投資主導型成長が始動しているだけに。早期腰折れの懸念小。
- (4) 最後に投資が再加速（図表4）。前年比では増勢鈍化が持続するものの、季調系列に変換してみると、昨年末の一時的翳りから立ち直り、本年初来、力強い増勢に。業種別には製造業。分野別では住宅調整が持続するなか、住宅以外の建設投資と機械投資が牽引役。エリアから見ると、これまで投資を牽引してきた沿海部から、遼寧省や吉林省の東北部、あるいは河南省や河北省、湖北省など内陸部へ重心シフト。不動産価格も同様の動き。加えて、着実な成長持続に向けた積極的な政府スタンス。以上を要すれば、同国経済は、今後、ハイペースの成長軌道復帰の公算大。

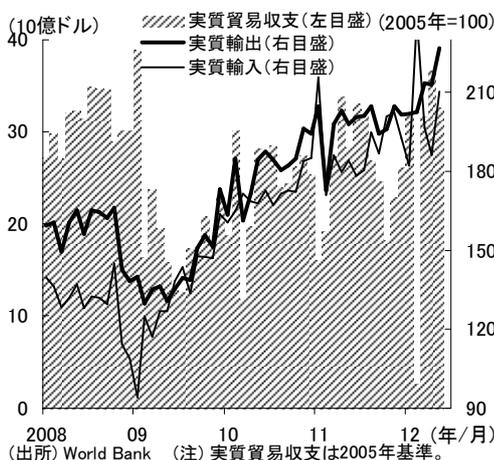
（図表1）中国の実質経済成長率



（図表2）消費支出、可処分所得と自動車販売台数



（図表3）実質輸出入と実質貿易収支（季調済）



（図表4）固定資本投資（前年比）

